



第 21 期旭陵留学生在が帰国しました！

約 10 か月間の留学を終え、3A 多賀好さん、3D 小木曾絢音さん、2A 角田凜さんの 3 名が無事帰国しました。帰国後、それぞれが留学生活での学びや成長、現地での貴重な経験について語ってくれました。

今回は、3D 小木曾絢音さんの留学体験をご紹介します。



留学先について教えてください。

アメリカ南部のテキサス州に滞在しました。年間を通じて気温が高く、夏は乾燥していて、サボテンやサソリなど砂漠を思わせるものをよく目にしました。メキシコと隣接しているため、食事や行事、お祭りなどにメキシコ文化の影響が強く、スペイン語の看板やメニューも印象的でした。NASA 宇宙センターやリバーサイドウォーク、テキサス独立の歴史を象徴するアラモ砦など、スケールの大きなアメリカ文化を体感できる場所も多くありました。

学校やホストファミリーはどうでしたか？

アメリカの高校では、自分の興味のある分野の授業を選択し、学びを深めることができます。私はアメリカの食について学ぶため、フードサイエンスや料理の授業を選択しました。また、現地でしかできない経験をしたいと思い、マーチングバンドや、米陸軍の授業にも挑戦しました。さまざまな経験を通して多くの人と出会い、価値観を広げることができました。

ホストシスターとは、ゲームをしたり、買い物や遊園地に行ったりと、楽しい思い出をたくさん作りました。日本好きなホストファザーとは、日本の歴史や政治について語り合いました。また、狩りの道具や皮の加工方法を教えもらうという貴重な体験もさせてもらいました。ホストマザーとは、一緒に料理や買い物をするなど、日常の時間を楽しみました。

ホストファミリーや友人、先生方に温かく迎えてもらい、多くのことを学んだ充実した一年となりました。



軍隊のクラスでの表彰式後

留学中、特に印象に残っていることは何ですか？

特に印象に残っているのは、日本とアメリカの価値観の違いです。日本では学校は「勉強をする場所」という側面が強く、授業を大切にする一方、アメリカでは地域との交流や人との関わりも勉強と同じくらい大切にされていました。スポーツ大会や、クラスでのお菓子パーティーなどのイベントが、授業時間内に毎週のように行われていることに驚きました。また、土日はしっかりと休み、家族との時間を大切にするなど、メリハリのある生活も印象的でした。時間に追われて過ごすことの多い日本人にとって、アメリカの生活から学べることは多いと感じました。



学年末のパーティー“プロム”

今後の抱負を教えてください。

アメリカで過ごした一年間は、新しい発見に満ちた刺激的な毎日でした。周りに日本人がいない環境で、言葉や文化の違いに悩むこともありましたが、何事も前向きに捉え、乗り越えられたことが大きな自信となりました。留学で得た新しい視点や自信を日本での生活にも生かし、現地で学んだことを周りの人に伝えることで、誰かに新しい価値観を与えられる人になりたいです。